

第2回『民族共生の象徴となる空間部会』議事概要

日 時：平成22年4月27日（火）13：20～15：00

場 所：北海道大学ポプラ会館会議室C

出席者：委 員：佐々木部会長ほか全委員出席

事務局：秋山審議官、内閣参事官ほか

傍 聴：文化庁、水産庁、経済産業省、北海道、札幌市

議 事：

1 「民族共生の象徴となる空間」の意義等について（加藤委員説明）

2 主な意見

- アイヌの精神文化との関係で、四季を通じ、海、山、川などの自然は重要であり、そういう観点で場所を考える必要あり。
- 新たな差別を生まないように、海外博物館や研究者との連携、海外先住民族との交流など世界規模での視点が重要。
- 人骨問題は、今後の共生、発展のためにしっかりと位置づけが必要。将来の研究成果の還元も考え、慰霊と研究を両立させることはアイヌ協会も理解の上で提案。
- 具体の機能を考えていくに当たって、国民理解の観点や、多くの国内外の人に訪れてもらうため、交通アクセス、観光の観点も重要。
- 木彫等は後継者がいなく、伝統文化の継承が危機的状況。一度途切れたら復活するのは困難。
- 工芸の継承に参画しやすくするため、ブランド化や伝統的工芸品化が効果的と考える。
- アイヌの精神文化は、自然や周辺の民族に影響を受けており、その関係を踏まえ、どのような形で実践、再生し、伝えていくかがポイント。
- 空間を持続可能な意味のあるものとするため、大学や他の博物館などの協力や連携が不可欠。
- 具体機能を考える当たり、国民理解、国民一般にとっての利益をクリアーにする必要。
- アイヌ文化の特別性、多様性も重要だが、現代を生きるアイヌ民族を国民が理解するなど、現代を生きる人が互いの状況を理解しあえることも重要。
- 人材育成の観点から、舞踊等の芸術のプロとしてのパフォーマンスアーツが重要。
- アイヌの精神文化に自然科学的裏付けや意味づけをしていくことが今後の検討課題。
- 人骨は、明らかに子孫が特定できるなどの場合は返還することが原則。ただ、将来を見据え、研究しなければわからないこともある。和人は研究による成果の還元が進み、アイヌは研究できずに還元できないという状況は避けたい。
- 人骨の問題については、アイヌ文化として慰霊をどう考えるかなどの微妙な問題もあり、アイヌの中で慎重に検討してほしい。

3 作業部会における合意事項

- ・今後の検討の進め方は、本日のアイヌの提案をベースとしつつ、国民理解、優先順位、実現可能性、海外事例等も考えつつ検討を深めていくこととした。
- ・次回以降、アイヌ委員の提案を元に文化、環境・植生、海外事例、観光・工芸等の観点で専門的に検討（ヒアリングなど）。

4 その他 次回開催は5月19日午後